

三重県病院協会会報

Mie Hospital Association (MHA)

No. 305 2024(令和6)年11月

特集

竹田 寛先生を偲んで

伊藤 正明	三重大学長
佐久間 肇	国立大学法人 三重大学理事・副学長
白石 泰三	桑名総合医療センター 理事長
松浦 元哉	三重県医療保健部 部長
加藤 俊夫	同心会 遠山病院 名誉理事長
平野 忠則	松阪中央総合病院 放射線科
楠田 司	三重県病院協会 理事長
志田 幸雄	三重県病院協会 副理事長
新保 秀人	三重県病院協会 副理事長

ペンリレー

フォト・ギャラリー

三重はふるさと 空中散歩

各種報告

三重県病院協会



表紙の解説

題字

揮毫は鬼頭翔雲先生です。先生は日展会員で、今までに特選2回、入選35回、日展で書道部門の審査員に選ばれました。日展の全部門を通じ審査員とされたのは、松阪市ゆかりの人では日本画の宇田荻邨（てきそん）と先生だけだそうです。他に読売書法会常任理事・審査員、中部日本書道会名誉副会長などの要職を務められています。

先生は、明るく気さくなお人柄で、誰からも好かれ、私にとっては30年来お酒と人生の師匠です。今回会報誌の題字をお願い致しましたところ、快くお引き受けいただきました。題字には、「力強さ」と同時に先生のお人柄である「おおらかさ」が表れ、私たちの会報誌を飾るのにふさわしい素晴らしい書であります。

デザイン

表紙の中央に淡い赤、青、黄の三重県地図3枚が、少し重なるようにして並べてあります。三重ですから単純に3枚並べてみたのですが、それが思わぬ効果を生み出しました。

病院は、医師、コ・メディカル（看護師、技術職員）、事務職員の三者が協力して運営していくことが最も大切であります。三色の地図は、三重県全体の医師、コ・メディカル、事務職員の集団を示し、県内のすべての病院では、これから三者が力を合わせて円滑に運営していくことを意味します。今まさにスタートの時ですが、あたかも陸上競技のスタートのように、三者が手をつないでスタートアップしているように見えます。また別の見方をしますと、ちょうど多度の上げ馬のように、馬が三頭、天に向かって飛翔しようとしているようでもあり、これからの飛躍をめざす私たちの協会を象徴するものであります。

またこのデザインを利用して、協会のロゴマークも作成しました。

表紙の背景は水色ですが、これはこれまでの会報誌の青色を少し薄くして引き継いだものです。

（竹田 寛 記）

特集 竹田 寛先生を偲んで

(敬称略)

三重大学長	伊藤 正明	1
国立大学法人 三重大学理事・副学長	佐久間 肇	3
桑名総合医療センター 理事長	白石 泰三	5
三重県医療保健部 部長	松浦 元哉	7
同心会 遠山病院 名誉理事長	加藤 俊夫	9
松阪中央総合病院 放射線科	平野 忠則	11
三重県病院協会 理事長	楠田 司	13
三重県病院協会 副理事長	志田 幸雄	15
三重県病院協会 副理事長	新保 秀人	17

ペンリレー

事務長 4年目です

医療法人社団 山中胃腸科病院

事務長 栗田さち子 18

今までもこれからも

総合心療センターひなが 地域生活支援部 医療福祉課

鳥越 宣吉 19

私の老化予防

医療法人大仲会 大仲さつき病院

精神保健福祉士 奥田みどり 20

フォト・ギャラリー

三重はふるさと 空中散歩

松阪市民病院名誉院長 小倉 嘉文 23

報告

三重県病院協会だより 27

三重県精神科病院会だより 28

竹田寛先生を偲んで

三重大学長
伊藤 正明

本年7月25日、三重県病院協会理事長、地方独立行政法人桑名市総合医療センター理事長の竹田寛先生がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

7月5日のお昼頃、先生からお電話をいただきました。体調が悪く予定している懇親会に参加できないとお話につき、先生はご自身の病状について話されました。あまりに突然のことで私の頭の中は真っ白になりました。この日の朝、CT画像をご自分の目で確認されたとのこと、先生のお心の内をお察しすると、万感胸に迫る思いです。

竹田先生は、三重大学教授、大学病院の病院長を経て桑名市総合医療センターの理事長や三重県病院協会の理事長として活躍されました。先生は、若い頃から様々な立場の方々とのご縁を大切にされ、相談があればどなたでも親身に応じられ、多くの方から慕われていました。私自身も長きにわたり、ご指導や励ましを頂いてきました。特に、私が医学部の教授になって以降、大学における医学・医療、そして三重県の医療体制を含め様々なことについてご相談に乗って頂き、いろいろな課題を良い方向に導いて頂きました。先生の素晴らしさは、常に他利の心で人と接され、先生にしかない幅広い人のネットワークをお持ちで、相談に乗って頂くと必ず何らかのお力添えを頂けることでした。先生に相談に乗っていただく時は、決まって大好きなビールを飲みながらの談義となり、最後にはいつも「応援するから思いっきりやれ！」と背中を押していただきました。また、難関難所に向かうときは、先生の「やるぜ！」の号令のもと、皆が心を一つにして突破口をみつけていきました。私にとって一生忘れられない場面の多くに先生の存在がありました。

先生と私は同じ団地に住んでいることもあり、カメラを肩にかけて自転車に乗っておられる先生にもよくお会いしました。附属病院長になられてからライフワークとされていた「院長の部屋から」や「理事長の部屋から」の連載コラムのため、草花の撮影に出かけられる先生でした。季節ごとに人知れず咲く花にやさしいまなざしを注がれ、プロ顔負けの写真を何枚も撮影されていました。患者さんやご家族の皆様にご覧いただくために始められたこの随想は、草花のつくりや仕組みに宿る自然の神秘と共に、その草花と関連した映画や文学、絵画、音楽などの様々な話題でつづられ、先生の医学に通じる科学者としての洞察力と歴史や文化、芸術から社会を見る人間の懐の広さ、寛大さや優しさが溢れていました。そして、何より、奥様のイラストを添えたこのコラムは竹田先生ご夫妻の仲睦まじさを静かに語っているものだと感じてきました。

竹田先生からご指導いただかなければならないことはまだ沢山ありました。もう一度先生とゆっくりお話できる時間を持てることを切に願っていましたが、願いむなしく、7月25日、先生の訃報に接しました。竹田先生とのお別れがまさかこんなに早く来ることになるとは、思ってもいませんでした。先生は、三重県全体の医療をさらに向上させたい、そして、それを仕事の集大成にしたいとお考えだったと思います。竹田先生のお別れの会で頂いた「最後の理事長の部屋から」には、病状が判明してからの先生の思いが「はじめに」の部分にあり、また奥様の追記に書かれてある「あと2年。あと2年あれば成し遂げることが出来

る」というお言葉からも、その思いが道半ばで断たれてしまったことは、どれほど非常に無念だったことかと心にしみる思いです。これまで頂いた先生のご恩にも報いる意味でも、先生がやり残されたことを、続けて我々が行っていなくななくてはならないと心より思っています。

深い哀惜と心からの感謝を込めて、竹田寛先生がご往生されますよう心よりお祈り申し上げます。

竹田寛先生、ほんとうに長い間有難うございました。



附属病院長をされていた竹田寛先生と総合防災訓練のため三重大学グラウンドにて
(2013年8月)

竹田 寛 先生を偲んで

国立大学法人 三重大学理事・副学長
佐久間 肇



竹田先生がお亡くなりになられて、もう4か月を迎えようとしています。7月8日に入院されてから何度か病室に伺いましたが、まさか3週間もたたずに天国に召されることになるとは、今でも信じられません。

先生は、1975年に三重大学を卒業し、1年間慶應義塾大学放射線診断部に勤務された後、1976年に三重大学放射線科に移られて、平野忠則先生と三重県の放射線科をゼロから日本有数の放射線医学講座へと発展させてこられました。先生は三重県の放射線科医のまさにパイオニアです。

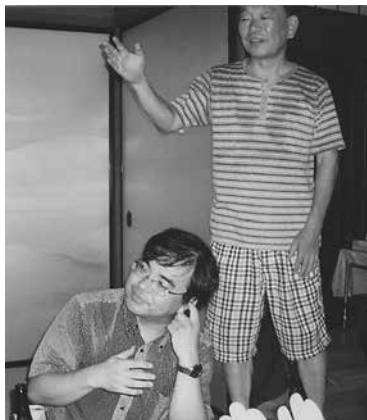
私が1985年に三重大学放射線科に入った年、竹田先生はアメリカのJohns Hopkins大学の留学から戻られました。帰国されたばかりの先生に、昔の附属病院1階の放射線部の部屋で、私の初めての学会発表や英文論文のテーマとなる、デジタルX線写真による冠動脈石灰化の診断に関する研究の、画像の読影や抄録作成のご指導を頂いたことを思い出します。それ以来39年間、竹田先生はずっと直属の上司であり、桑名市総合医療センターに移られた後も、放射線科に限らず地域医療全体をみてどのように貢献できるか、という視点で大変多くのご指導や示唆をいただきました。

先生は三重県の放射線科を築いてこられました。放射線科教授で副院長をされていた15年ほど前のことだったかと思いますが、「放射線科は発展的に解消！」と言われたことがあります。その時は戸惑ったのですが、この15年間に三重大学・放射線科は従来の放射線科の枠を超えて発展することができました。私共はともすれば組織や診療科の枠にとらわれて、その中で物事を考えがちになります。竹田先生のお言葉の示唆することは、「従来の診療科の枠に縛られず、縦割りを解消してもっと柔軟に医療のために発展すべきだ」という事であったと思われまます。こうした竹田先生のポリシーが、桑名市医療センターや三重県病院協会における先生の大きなご貢献につながるものと、改めて思い返しています。

竹田先生は、患者さんに毎日直接接している看護師さんなどスタッフは本当に大変だ、患者さんに最も身近な存在である彼らの待遇を良くしなければ、患者さんに良い医療は提供できない、ということをお私にも何度も話されていました。理事長の報酬は上げなくてよいからスタッフの給料を上げてやってくれ、ということを実践されておられたと聞いています。良い人ほど神様が早く手元に呼びたくて早く召されるんだ、という言葉も聞かれますが、先生にはもっともこの世にいてご指導いただきたかった。これほど早くお別れすることになりましたこと本当に残念でなりません。

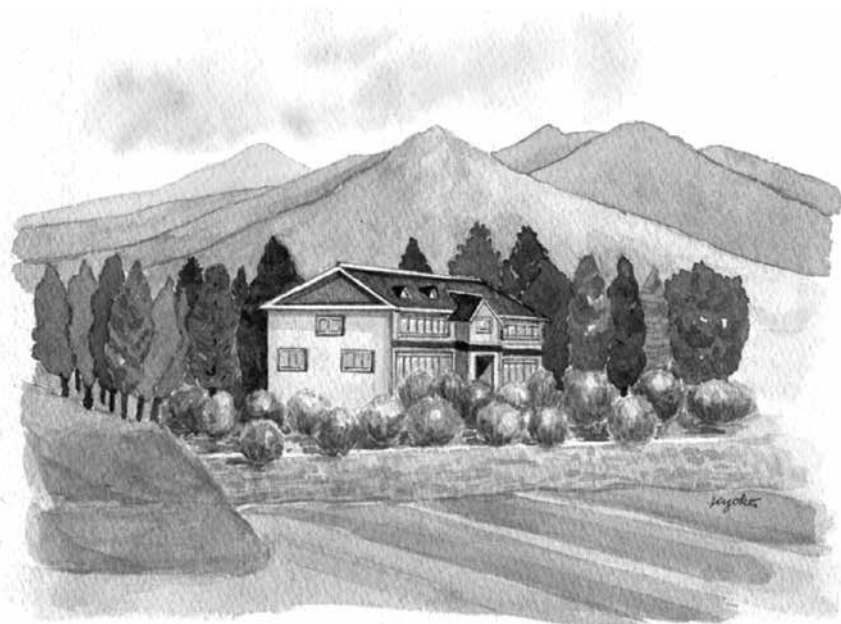
竹田先生、39年間にわたりご指導いただき、本当にありがとうございました。これから

も、竹田先生だったらどう考えられるか、という事を常に考えながら、医療のために尽力して参りたいと思います。どうか、心の中で今後ご指導ください。



2008年8月5日

上浜町3丁目のご自宅で 暑気払い



竹田寛先生を偲んで

桑名市総合医療センター理事長
白石 泰三



竹田先生は不思議な人で、まったく偉ぶったところがありませんでした。誰に対しても丁寧に、優しく対応し、言葉を荒げることはなく、いつもゆったりとした態度で、慌てることもありませんでした。これまでの数多くの業績をみれば、指導力の発揮なくしては為し得ないことばかりですが、それを全く感じさせない物腰でした。私が桑名市総合医療センターに着任したのは2016年4月ですが、その前年に、ある酒席で竹田先生と同席したことがありました。三重大学での定年も近くなって、先のことを考え始め、病理医としての病院勤務を漠然と考えていた時期だったのですが、何かの話のついでに将来のことを聞かれました。私は、中～小規模の病院で病理医としてのんびりと過ごしたい、と答えたのですが、その場で直ぐに、なら桑名に來い、とオファーをいただきました。お申し出をありがたくお受けしたのですが、結果的に副理事長職で迎えて頂きました。着任後、わざわざ私のためにポストを新設していただいたことを知りました。赴任後も病理検査室の件、自身の学会活動の件などで要望を出したのですが、ことごとく二つ返事で承諾いただき、とてもスムーズに仕事を続けることができました。

当院着任後しばらくは病理医としての仕事をしていたのですが、だんだんと仕事に慣れてきた時期に、やはり酒席で、患者さんの診察にも興味があると言ったところ、それならば健診センターで外来を担当したら、と提案をいただきました。当時、竹田先生は理事長をつとめながら、健診センター長として週に3日外来を担当されておりました。私自身の参考に、竹田先生の診察風景を拝見したのですが、いつも笑顔で対応され、数多くのリピーター受診者（竹田先生のファン）がおりました。実際に外来を始めてみると、病理の知識が健診外来にとっても役立つことが分かりましたし、病気についての説明を受診者に理解していただくことが生活習慣の改善にも必須であることを実感しました。これを契機に、院内のがん患者相談支援センターにも関わる様になり、さらに、小中学生へのがん教育や、がんに関する市民講座等のがん予防に関する啓蒙活動にも携わるようになりました。新しい分野へチャレンジする扉を開いていただき、この点でも竹田先生にはとても感謝しております。

このような経緯で病理医、健診センター外来医、がん患者相談支援センター長として仕事をしておりましたが、今から思えば、副理事長としての自覚が希薄だったと反省しております。本年の7月初頭に竹田先生が入院されて、理事長代行業務を行ったのですが、初めて理事長の職責の重さを実感しました。重責を担いながらも医療センターの舵取りをスムーズに行っていた竹田先生は不思議な人でどころか超能力者であったかもしれません。「竹田先生を送る会」の終了後に、ご遺族から「寛は、先生に病理解剖していただきたいと申しております。」とお聞きしたのですが、余りにも急に逝かれてしまい、最後の願いを叶えることができませんでした。竹田先生の超能力の源泉と、ビールを何杯飲んでもトイレに行かない優秀な膀胱、の病理学的解析ができず、残念でなりません。

竹田先生、私に素晴らしいセカンドライフを与えていただき、心より感謝を申し上げます。
どうぞ安らかに眠り下さい。



竹田先生を偲んで

三重県医療保健部長
松浦 元哉

竹田先生の突然の訃報を受けてから、はや四か月が経とうとしています。本県の医療に多大なる功績を残された竹田寛先生に謹んで哀悼の意を表します。

先生には長きにわたり県の医療政策の推進に情熱をもって携わっていただき、県としても大変お世話になりました。先生とのエピソードをいくつかご紹介させていただき、追悼の文とさせていただきます。

私が最初に先生と仕事をさせていただいたのは、令和元年度、地域医療推進課長の時でした。災害医療を推進するため、県内すべての病院にBCP（業務継続計画）を策定していただくことを目標に掲げ取組を始めておりました。三重大学工学部の川口准教授（当時）にご指導いただきながら、県内8つの地域（地域医療構想区域）で研修会を開催することとなり、その際、病院協会理事長であった竹田先生の全面的なバックアップをいただくことができました。まず、竹田先生のいらっしゃった桑名市総合医療センターのある桑員地域をモデル地域として3回の研修会を開催し、そのすべてに竹田先生にご参加いただいたことで、BCP策定が初めての病院においても理解が進んだのを覚えております。先生のアイデアにより、病院の規模や専門性に着目して病院ごとに役割分担を設定し、どのような災害が起こっても、地域に残った病院の機能をフルに結集して地域医療を守るための仕組みとする先進的な病院BCPの策定を進めることができました。ひとえに先生の熱い思いと寸暇を惜しまないご尽力があったからこそと思っております。

新型コロナウイルス感染症対策においても、病院協会の先頭に立って、コロナ患者受け入れ体制の整備に多大なご協力をいただきました。病院協会主催で受入体制の整備にかかる会議を開催するなど、地域における調整に主体的に取り組んでいただいたことで、整備を進めることができました。

昨年度、私が感染症担当の理事の際には、新興感染症に向けた感染症予防計画を策定するための感染対策連携協議会において、各医療機関間での連携の重要性をご指摘いただいたり、病院協会としても全面的に協力していくと、ありがたいご発言をいただきました。

本年5月に県庁に来られた際には、病院協会の取組を聞かせていただきました。各病院では看護職員確保が課題となっており、協会としてはその取組の一環として院内保育所の整備を推進しているところで、協会内でアンケートも実施したと聞かせていただきました。その際、こちらから、看護職員確保についてはどうしたらいいか、先生のお考えをお伺いしたところ。桑名市総合医療センターでも看護職員確保に苦勞していたが、自分の指示で、まずは看護職員の休める環境を整備してほしいと事務局にお願いし、そのためには最初人

員が不足しても、業務を見直すなどしてやり切ったことで、結果として看護職員の定着、離職防止につながり、今は好循環となっているとのお話をいただいたことが印象に残っています。また、医師だけでなく看護職などのコメディカルや事務職も含めてみんなが働きやすい職場づくりが重要であると熱く語っておられ、全職員を大切にしようとする先生のお人柄が現れていると感じ入った次第です。

先生とは何度かお酒の席もごいっしょさせていただきました。はじめて、ごいっしょさせていただいた際には、私がまだ課長の時でしたが、初対面で医師でもない私が偉い先生に何を話したらよいものかと思案しておりましたら、先生の方から優しく話しかけていただき、会話がはずんだのを覚えております。

先生は名張市立病院の独立行政法人化にもご尽力をいただいております、そのご縁もあって本年6月に名張で酒席をごいっしょさせていただきました。いつものように美味しそうにビールを飲まれて、医療の話だけでなく先生の好きなお花の話や理事長の部屋のブログの話など聞かせていただき、和やかに過ごさせていただきました。まさかこれが先生とお会いできる最後になるとは思いもよりませんでした。また、楽しいお酒をごいっしょさせていただきましたかった…。

竹田寛先生のご冥福を心よりお祈りいたします。



惜別 竹田寛先生

遠山病院 名誉理事長
加藤 俊夫



竹田寛先生の思いがけない訃報に接して、どれほど多くの人が驚き、深い悲しみに包まれたことでしょうか。大学同期で親しくお付き合いをしていただいた私は、あまりに偉大でかけがえのない存在を失い、この喪失感、虚無感は生涯消えることはないように感じています。

竹田先生の公人としての立派な業績、功績は誰もが知るところですが、その気さくであたたかいお人柄やお酒にまつわるエピソードも、すべてが竹田先生の魅力でした。三重県で一番偉いお医者さんに違いないのに、全くえらぶことはなく、誰とでも仲良くなって、楽しいお酒を飲んで、面倒見がよくって、自分の損得勘定や打算は一切なく、いつも相手のことを思って力になってくれました。弱い立場の人に手を差し伸べて、多くの人に愛をそそがれ、そして愛され、頼りになって、普段はあまり会うことはなくても、竹田先生が元気で存在しているだけで、それが何かの支えになっている、そんな思いをお持ちの方も多かったのではないのでしょうか。

昭和50年卒業生の会でも、同期の誇りで大黒柱のような存在感は、教授や病院長を歴任した業績だけではない、その人としての大きさ、人としての魅力だったと思います。一方、聖人君子ではない紛れもない俗人で、夜遅く酔って帰って自宅の玄関先で転んで血まみれになって、私が呼ばれて、私も晩酌で酔いながら在宅で縫合処置をしたこともありました。持つべきは外科医の友だと酔った笑顔で誉めてもらいました。馴染みのスナックで酔って一緒に唄った、みかんの花咲く丘や朧月夜などの唱歌、寛さんのあのご機嫌の笑顔が目につかびます。教授現職の時は、同級生だからと甘くなることはなくご自身の意志や意見を貫かれ、そしてそれでもやっぱりやさしかった。長年のお付き合いのすべての時間がいとおしくせつなく思います。

そして大学の病院長になってから書き始めたエッセイには、長い付き合いながら知らずにいた、竹田先生の奥深い才能が存分に披露されており改めて驚かされました。読まれた方も多いたと思いますが、小さな花や生き物や、季節の移り変わり、人の営み、世の中のあらゆる事象に注がれる竹田先生のやさしいまなざしを感じさせ、例えば秋海棠(シュウカイドウ)の花の佇まいを文楽人形に見たてるような感性や、野に咲く小さな花への思いから展開される竹田先生の世界は、いつしか文学や絵画、音楽、映画などの芸術や文化の深淵に誘われ、その博識、繊細な感性、想像力、豊かな表現力に圧倒される思いがします。さりげなくこんな世界を内に秘めていた竹田先生に感服しました。そしてそこに添えられた、奥様の素朴で郷愁を誘うイラストの数々、植物図鑑のような精緻な図譜から、唱歌の世界に通じる懐かしい絵のタッチ、どれもあたたかく竹田先生の文章と見事にマッチしています。ご夫婦で15年にわたって奏でてきたこの世界が、最後を迎えたことは本当に残念で惜しまれます。奥様のご無念もいかばかりかと拝察いたします。

私は竹田先生と同期ですが少し年下で、先生の健康管理人の様な役割をしてきました。先生は20年ほど前から親交のある方々と、遠山病院で定期的な健診を受けてこられ、最近では20人以上の様々な分野の方たちが、8月に同日で、採血、胃大腸内視鏡、肺CTなどの

健診を受けて、その夜はレストランに集まって、皆で健康を祝して乾杯をするのが恒例となっていました。その輪の中でほろ酔いで微笑んでいる竹田先生の存在感、ご自身の健康管理ばかりでなく、自分の周囲の誰もの健康を願う竹田先生の世界でした。

そしてこの7月2日に私は、竹田先生と桑名で親しく飲み交わす機会がありました。自分は80歳までは現役でいるから加藤も頑張れなどと話されて、いつもと同じように楽しい時間を過ごしたその3日後、竹田先生は少し腹の調子が悪いと言って私のところにみえました。とりあえず採血をして腹部CTを撮って、診察室で一緒にCT画面を見はじめ、私も竹田先生も、思いもかけない深刻な画像所見に息をのみました。「か、寛さん、これって・・・」私は言葉を失い、ご自身もひと目見て病状を理解され、その後はあわただしく大学と連絡をとるなどして、竹田先生はご自宅に戻られ、私はあまりの出来事に呆然として取り乱していました。これは現実なのだろうか。こんなことって本当にあるのだろうか。嘘だろ？・・・昨年末にCTで胆嚢に腺筋症疑いの影があるとのことで、1月か2月に手術をしておこうかと話をしていた、しかしお互いの多忙に紛れていつの間にか時間が過ぎていました。画像を見ながら手術のことが頭をよぎりました。私は外科医としての自責の念に駆られ、そしてあまりに大切に大きな存在が失われてしまうという、絶望感と焦燥感で平静ではられませんでした。

日が暮れて、竹田先生は自宅でどうしているのかと気にかかり電話をしたら、電話の向こうで先生は「おう加藤、今日はありがとうな。今、嫁さんと飲んどるところや、ええ人生やったなあ言うて」と少し微笑んでいるかのように話されました。そして私が手術のことを口にすると、「これは自分の宿命やと思っている」と静かに語られ、私の言葉を遮るように「加藤、おまえは気にするな、おまえは気にするな、おれの運命と言うことや、おまえは気にするな」と声を大きくして話されました。自分の死と言う受け入れがたい現実と直面しながら、竹田先生は、何ら動じる様子はなく私のことを気遣ってくれていました。人としての器の大きさ深さ、これが竹田寛と言う存在なのだと思ふれました。

それから3週間であまりにも慌ただしく先生は旅立たれてしまいました。竹田先生の命を奪った胆嚢病変は、極めて稀な未分化な播種性の病態で、1月に手術をしていても既に難しかったと今では理解されますが、しかし手術をしていたらどうだっただろう、あんなに健診もしていたのに、もっと早く何とかならなかったのか、何で竹田寛先生なのか、神様は何を間違えられたのか、と様々な思いが去来します。竹田先生は空の上から、あの慈愛に満ちた大きな包容力で、私たちの煩惱を包んでくれるのでしょうか。

竹田寛先生の華やかであたたかく人間味あふれる人生の舞台は、突然の終幕を迎えました。残念で無念でなりません。そして竹田先生が胸の奥深くに収めたその無念は、はかり知れなかったことかと思えます。でも竹田先生、敬愛する寛さん、本当に立派な素晴らしい人生を歩まれましたね。あなたを知るすべての人が、悲しみから立ちあがって、あなたの生涯にスタンディングオベーションをしているように感じます。

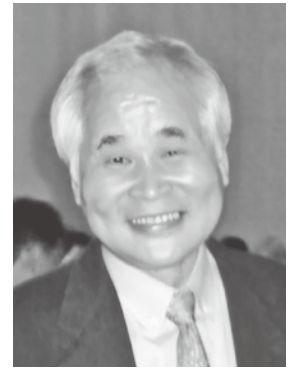
竹田寛先生のすべてに心からの敬意を表し、言葉では尽くせないありがとうを捧げます。どうか安らかに眠りください。



同級生プチ飲み会
2023年4月

竹田先生

松阪中央総合病院 放射線科
平野 忠則



毎日が寂しいし、悲しいです。

僕は先生とは大学に入学して、知り合いになりました。

僕は一年留年して卒業は一年遅れになります。国家試験の勉強をしている時に毎週僕の下宿に寄って頂き、励ましてくれました。試験に合格すると将来は何科を希望しているのか、決めていないなら放射線科に俺と一緒にはいりゃせんか、と誘ってくれました。当時の放射線科は人も少なく、現在のような診断学は充実していませんでした。それでも先生は一生懸命に誘ってくれるものですから一緒に入局しました。毎日一緒に勉強して、毎晩お酒を飲みました。それから50数年にわたって付き合いをさせて頂きました。

先生は教授になり、病院長になり、桑名医療センターの理事長になります。色々な困難もあったかと思われませんが、意外と太っ腹で、多くの諸難題を処理していきました。

僕は感心しているのは桑名医療センターの統合問題です。全国的に見ても公共病院と民間病院との統合はうまくいった例はなかったものと聞いています。なお且つ、統合後早くに黒字転換がなされ、成功に導いています。その間の苦労があったものと思われませんが、なんら愚痴をこぼすことはありませんでした。あるとすれば、職員の給料問題だと聞いております。給料が上がる人もいれば、下がる人もいる。不公平感がないように一人一人に面談を行い、納得してもらったと聞いております。この成功例が全国に広まり、竹田先生のもとに講演依頼や相談が沢山きて、全国に相談、講演に走り回っていました。先生は何事においても積極的であり、人に優しく、いろんな職種の人と飲みかわしていた先生でもありました。先生は三重大学医学部附属病院と提携を結び、医師の派遣をスムーズに行えるようにして、県下でも医師の数が最も多い病院の一つであります。更に病院の職場環境にも気を配り、看護師さんの離職率が県下で最も低い病院とされています。病院の改革にも積極的に取り組み、素晴らしい病院になったものと思われます。

先生のことでもうひとつ忘れてならないことがあります

先生は20年近く、病院長の部屋から、理事長の部屋からというエッセイを執筆されています。毎月一回のペースで書かれています。その中で特記すべき事は、先生は非常に植物、草花に詳しいことです。

理事長の部屋からの題材は月1草花と決めて毎週週末になれば、自転車で2～3時間、津の田舎の方を走って写真撮影に行っていました。理事長の部屋からの写真は全て先生が撮影したものです。その草花に関係したことを文献で調べて人物や草花に関したことも書いていました。先生は付き合いが非常に多く、飲み会があるので毎月の締め切りがすぐに来てしまう、とこぼしながら締め切り近くになると徹夜して書いていたそうです。つい最近も自転車で撮影に行っていました。こんな先生がまさか大病を患っているとは想像もしていませんでした。晴天の霹靂でした。先生と最後に交わした言葉は、平野、CT写真を撮ったから見ておいてくれるかといわれ、少しむつかしい状況になっているね、と報告す

ると、そうかとの一言が最後の言葉でした。

長々と述べてきましたが、まだまだ語りつくすことがたくさんあります。
語り尽くせません。

先生には色々と導いて頂き今の自分があるのは先生のおかげだと思います。
ありがとうございました。どうぞ安らかにお休みになってください。



Kyoko.



竹田先生を偲んで

三重県病院協会理事長
楠田 司

竹田先生

このたびは、謹んで先生のご逝去を悼み、生前の温かいご指導に対し、あらためて御礼申し上げます。今回、先生の追悼を企画するにあたり、多くの方に御寄稿をお願いしました。先生の三重大学病院時代あるいは桑名医療センター時代の思い出を語っていただけると存じます。私からは三重県病院協会理事長としての竹田寛先生の一面に触れてみたいと考えます。

さて、竹田先生とは当初はお会いした折に言葉を交わすくらいの間柄でしたが、特に親しくさせていただくようになったのは、私が三重県病院協会の理事となった平成30年頃よりと記憶しています。同時期に先生は理事長となり、以後現在まで当協会をまとめ、精力的に活動範囲を広げておられました。多忙にも関わらず常に微笑みを絶やさず屈託のないご様子や宴会の席になれば顔を赤らめながらお酒を大層おいしそうに召し上がっていた光景は今も目に浮かびます。私が今年7月初旬の日本病院学会を主催するにあたってその四か月ほど前に副学会長をお願いした際、詳細を確認することなく「楠田先生の依頼ですから」の一言でご承諾いただいたその懐の深さには敬服した次第です。

先生は三重大学医学部放射線科教授、その後三重大学医学部附属病院長を歴任された後、桑名医療センターの理事長として活躍の場を地域医療の発展へと広げられました。特に病院協会理事長であったここ数年、残る自分の人生は三重県の医療をさらに良くするように尽くすことだと何度も周囲に漏らしていらっしやっただのを記憶しています。そんな先生におかれましては「まだ志半ばだ」とおっしゃられるでしょうが、それでも我々から見れば、病院協会の枠を超えて実に様々な課題に取り組まれてきました。三重県病院協会の理事長として6年間職責を全うされ、我々病院協会会員を導かれました事は感謝の念に堪えません。特に忘れないのが2021年夏でした。新型コロナウイルス感染症第5波の真ただ中、新規感染者や入院患者数は類を見ない増加を記録し、病院内では病棟や外来、さらには病院外でも中等症以上の感染患者があふれる事態となり、コロナによる命の選別というあるまじき事態が報道されもしました。その最中、先生から緊急会議の招集が掛かりました。当時三重県内の感染者数の状況は県発表で把握する以外知る術はありませんでしたが、県下の病院、医師会、県担当部局、消防、看護協会、保健所などがZoomで一同に会せば、三重県下の状況をリアルタイムで共有できることとなります。県内各地の状況が生の声で届けられ、各病院の戸惑いと切迫感や危機感を改めて共有し、病院間の連携の必要性を痛感するとともに連携の強化が進んだのは、ひとえに先生のお声掛け、リーダーシップのおかげでした。

それだけではありません。コロナ禍の3年半は、例えば各医療施設で感染対策のための医療資材が不足していないか、急増する救急需要を効率的に受け止められる体制作りができていないかなど県内病院で医療の停滞を来さぬようにきめ細かな配慮をしていただきました。また、自然災害大国である日本において、特に三重県では東海、東南海地震をはじめとする様々な災害を想定したBCPの策定はなくてはなりません。しかし、先生は三重県の病院BCP策定率が全国的にも低いことを憂い、できるだけ多くの病院がBCPを策定できるように精

力的に活動されました。県内各地の病院へ危機管理の重要性を発信し、備えを進めるように説いて回るといった時間のかかる地道な作業をすすめられました。現在では県内病院の76%がBCPを策定し、三重県を全国有数のBCP策定率に引き上げたことは、およそ余人をもって代えがたい仕事と敬服いたします。

また、先生は以前より私に今後の病院協会の在り方を考えるように指示されていました。県下の各病院の声を規模や所在地域に関係なく隈なく拾い上げ、病院経営に資する有益な情報を各病院に提供できるように理事の選出方法や定員数の見直しを行い、現在の定数に変更しています。その後、病床数に見合った公平な費用負担とすべく、会費の見直しといった実務的な修正も行ってきました。しかし、残念ながら地域完結型医療、地域包括ケアが進む中、協会の活動内容の見直し等、本質に迫った協議は未だに行われておりません。先生との意見交換の時間をもち、会員病院をはじめとした県下の病院のために、さらに三重県の医療・介護・福祉向上のために三重県病院協会はどのような活動をすべきかを先生とご相談するつもりでした。本年6月末、私に「今年7月の学会まで忙しいでしょうから、学会終了後に協会運営についていろいろ相談しましょう」とおっしゃいましたが、ご指導を仰げないまま今日という日を迎えてしまいましたことは残念でなりません。

ところで、先生は4年前に三重県病院協会会報誌を一新されました。サイズはB5版からA4版となり、装丁や掲載内容なども変更が加えられています。表題は、竹田先生のご友人である書家 鬼頭翔雲先生の揮毫を得、ターコイズブルーであった表紙は、ベビーブルーを背景にして中央にピンク・グリーン・イエローの3つの三重県地図が並んで腕を組んだようなイラストとなっています。カラフルになったばかりでなく3色はそれぞれ医師、コメディカル（看護師、技術職員）、事務職を表しているそうです。質の高い医療は多職種の協働の上に提供できるものであり、三重県の形は県内のすべての病院がそうあってほしいという先生の願いなのでしょう。三重県の病院医療の発展を願う先生の意気込みが強く感じられるものとなっています。また、この雑誌に新たに追加された数ページのフォトギャラリーには、三重県内各地の景観や季節の花々の美しい写真が掲載されており、その中の「四季折々」と題された花の写真とキャプションは竹田先生自らの作となっています。実は先生は植物をこよなく愛され、ご自身で撮影された花々の写真を掲載された本を現在までに数冊出版されています。数々のお写真には、医療に限らずあらゆる分野に造詣の深い先生の文章と奥様の美しいイラストが添えられ、先生の心優しい繊細な一面も垣間見えるその御本を感慨深く拝読しながら、先生から与えていただいた「今後の三重県病院協会の在り方」という宿題とどう向き合っていくかをあらためて肝に銘じた次第です。竹田先生が植物を愛するように丹精込めて育てた三重県病院協会を、更に花開かせ継続させることを今後の私たちの使命といたします。

生前のご指導に深い感謝を捧げ、お別れのご挨拶とさせていただきます。竹田先生、ありがとうございました。



竹田寛先生を偲んで

三重県病院協会 副理事長
志田 幸雄



竹田寛先生のご逝去に際し、深い悲しみとともに追悼の意を表したく存じます。

竹田先生は、三重大学放射線科の教授として放射線医学と核医学の分野で多大な貢献をされました。その後三重大学医学部附属病院の病院長を務められ、2013年からは桑名市総合医療センター、理事長として、桑名市はもとより北勢地域の地域医療の充実に努められ、多くの患者さんやそのご家族に安心と希望を届けられました。また、三重県病院協会の理事長として県内医療機関における医療連携体制構築、医療の質の向上に尽力され、特に地域医療構想、大規模災害対策等におけるそのリーダーシップは多くの人々に感銘を与えました。先生のご功績は、医療界にとどまらず、地域社会全体に大きな影響を与えました。その卓越した指導力と温かい人柄で多くの人々に慕われました。先生のご功績、御性格については私よりもっともっと懇意にされてみえた諸兄が語られると思いますが同年兵として、温厚で懐の広い御性格であり誰からも好かれた先生でした。もっとこれからご一緒したかったのに無念としか言いようがありません。

私たちは昭和24年の同年生まれであり、共に放射線科の道を歩んできました。私は他県の医科大であった為、特に三重県に戻って来てから放射線科医として大変お世話になりました。先生は、三重乳がん検診ネットワークの理事長を平成22年からされており、マンモグラフィの読影試験を共にしたことがありました。その時の思い出として、試験の最中シャーカステン脇の暗闇から肩をたたかれニコッと笑った先生の笑顔が今も鮮明に蘇ります。その後先生が三重県病院協会の理事長に就任されてからは、より一層深いお付き合いをさせていただきました。

竹田先生は、医療の現場でのご活躍だけでなく、私生活においても常に情熱を持って取り組まれていました。特に山野草への愛情は深く、その美しさを奥様と一緒に楽しむことを大切にされていました。山野草の知識と経験をまとめた本も執筆され、その中で自然への思いを綴っておられました。三重大学医学部附属病院の病院長時代には「院長の部屋から」を執筆され、桑名市総合医療センターの理事長になられてからは「理事長の部屋から」と続けられ多くの人々に感動を与えました。

私は、竹田先生と個人的にも親しくさせていただきました。前三重県医師会長の二井栄先生と3人で楽しく飲み交わした日々も、懐かしい思い出として心に刻まれています。また、初夏の頃には、拙宅の茶室「桜樹亭」で、竹田先生とも親交の深い書道家の鬼頭翔雲先生と3人で小宴を催しました。その夜は、お酒を酌み交わしながら楽しいひとときを過ごしました。翔雲先生に書いていただいた掛け軸「龍志」の書を見るたびに、先生の穏やかな笑顔が思い出されてなりません。

先生は、お酒を愛し、その嗜み方にも独特の美学がありました。先生と共に過ごした時間は、私にとって特別な思い出です。語り合った数々の夜、先生の笑顔と共に、医療の未来や人生の哲学、植物や趣味の話しまで、楽しく語り合ったことが昨日のこのように思い出されます。先生の言葉はいつも深く気配りがあり、そして温かく、私の心に響きました。いつ

も明るく、周囲の人々を楽しませてくださいました。その温かい笑顔と優しい言葉は、多くの人々の心に深く刻まれていることと思います。時が経つほどに、先生のお顔が鮮烈に浮かんでまいります。先生との思い出は、私にとってかけがえのない宝物です。また、竹田先生のご息子が三重大学医学部附属病院の総合診療科にみえた頃、我が息子も大変お世話になりました。お二人には、悩んでいる時に励ましていただいた恩人でもあります。先生のご逝去は、私たち親子にとっても大きな損失です。しかし、先生が残された数々の功績と温かい人柄そしてその精神は、私たちの心にこれからも生き続けます。先生のご遺志を継ぎ、先生が愛された山野草のように、しっかりと根を張り、私たちもまた、医療の発展と地域社会の健康を守るために努力を続けてまいります。最後に、竹田先生の奥様、ご家族の皆様、に心よりお悔やみ申し上げます。先生のご冥福をお祈りすると共に、その偉大な業績と温かい人柄、笑顔を忘れることなく、私たちの心に刻み続けます。竹田寛先生、ありがとうございました。



竹田 寛先生を悼んで

三重県病院協会 副理事長
新保 秀人



三重県病院協会の文字通りの看板として理事長であられた竹田 寛先生がご逝去されました。突然の訃報ということで深い悲しみに包まれました。竹田先生は病院協会の理事長以外にも多くの仕事をこなしてみえたので非常に多くの方々のご一緒に仕事をされ、また影響を受けていたと思います。私もそのうちの一人ですので、ここではエピソードの一つをご紹介します。竹田先生の素晴らしさを共有できればと存じます。

竹田先生が三重大学医学部附属病院長の要職におられたときにある臨床系講座の教授選考がはじまりました。その講座は募集をかけてもなかなか候補者が集まりにくいとされていた講座でした。実際、選考は順調とは言い難い状況でした。私も選考委員を拝命していた関係で厳しい状況となることはある程度は予想しておりましたが、それを上回る厳しい状況となりました。選考委員の先生方も下を向くしかない、まさに途方に暮れているという雰囲気になっていました。しかしそこで竹田先生はまさに本領を発揮され、「可能性のある先生方に直接面談して依頼してみよう」と発言され私も竹田先生のお供をして各地をまわりお願いをいたしました。多くの先生はなかなか首を縦に振ることはなく、いってみれば空振りに終わるわけですが、竹田先生は決してしょげることなく粘り強く各地の先生方に面談をしに訪問されました。その結果めでたく候補者も集まり、選考が進むこととなりました。

竹田先生は柔和な顔をされていますが、行動力はすさまじく、また決してあきらめることなくゴールに向かって歩みを止めない、またその行動の過程にあっても周囲の人たちをいつの間にか味方に引き入れて最終的にはきっちりゴールに到達する、そのような生き方をこの件を通じて身近で学ばせていただきました。まだまだご活躍を期待されていたのでお姿を見ることがかなわないということは受け入れがたいことです。

これからはゆっくりされておいしいお食事やお酒を飲みながら我々のことを見守ってくださることと存じます。竹田先生の輝かしい実績に敬意を表しますとともに心から哀悼の意を表します。





事務長 4年目です

医療法人社団山中胃腸科病院
事務長 栗田さち子



山中胃腸科病院で事務長を務めさせていただくようになって、もうすぐ4年が過ぎます。その間の多くの時間がコロナ対応で過ぎていき、今年になってすこしずつ、本来の病院の仕事に戻ってきたというところで、前職から転職してはじめて病院の仕事を経験させていただいている私としましては、どこまで本来の事務長としての務めが果たせているのか、理事長先生、院長先生をはじめ職場の方々はどう思ってみえるのか自問自答する毎日です。

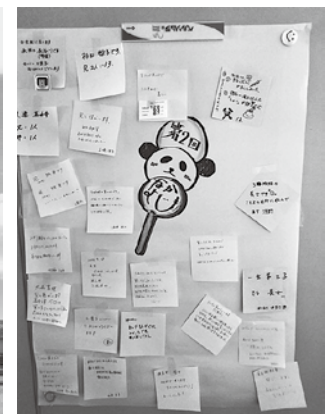
当院は、今年の12月1日で創業78周年を迎えます。創業当時から一貫して日曜診療を続けており、地域医療への貢献は大きなものがあると自負しております。特に新型コロナの発熱外来は日曜日に診療している医療機関が少ない中で、多くの発熱患者さんの対応をさせていただくことができ本当に良かったと思っています。

また、私は、平成21年に新型インフルエンザが流行した際に四日市市の保健所の職員としてその対応に当たっておりましたが、今回の新型コロナも規模は各段に違うものの行政の感染対策の基本的な流れは当時と同じであったと思っています。今回、行政側ではなく医療機関側から対策に関わらせていただくことができ、行政側と現場の医療機関の両面から感染対策を体験させていただけたことは大変貴重な経験だったと思っています。

ただ、日々の業務には課題や悩みも多く、中でも一番の課題は、退職者の補充だと感じています。当院では昨年度末には、看護師が多く退職し、一時は病棟の入院制限もせざる負えない状況に至りました。もちろん看護師に限らず様々な職種の職員が様々な理由で転職や退職をされていくのが当院だけでなく医療現場や介護現場の宿命かもしれませんが、職員の補充ができないと業務がうまく回らず、忙しさに人間関係もぎくしゃくするなど頭の痛いことばかりです。そういった中で、今年度から職員全員を対象として時間外に「なかよし」というネーミングの交流会をはじめました。参加者皆がお菓子を食べながらわいわいとおしゃべりをして楽しく過ごす集まりで、まだ2回目ですが、今後、うまく定着して職員どうしの交流が深まることを期待しています。

そんな悩み多き毎日ですが、基本的には家族的な雰囲気や温かみのある病院環境の中で仕事をさせていただいていることに感謝し、少しでも患者様や職員の皆様のお役に立てるよう日々精進していきたいと思っています。

(もっと違った視点からの文章としたかったのですが、結果としてこんなになりました。すみません)





今までもこれからも

総合心療センターひなが
地域生活支援部 医療福祉課
鳥越 宣吉



総合心療センターひながの鳥越と申します。自己紹介を兼ねて経歴などを紹介させていただきます。入職当時はデイケア課に配属され、デイケアスタッフとしてスポーツや料理、箱折り作業などのプログラムをメンバーさんと一緒に行っていました。出勤したら早くから来所されているメンバーさん達とデイルームで新聞を読みながら、野球や相撲などスポーツの結果や雑談をして、1日が始まっていました。アットホームな日中の居場所的なところでした。

PSWは当時、病院全体で9名でした。まだPSWの国家資格がなかった時代でしたが、資格化が決まり、夏の暑い中、名古屋まで現任者講習会に通いました。毎日職場の同僚と試験の質問を出し合ったり、時間外には皆で勉強会を行ったりして、無事、精神保健福祉士の資格を取得しました。試験会場に向かう道中、悪天候の中、道に迷い、雨に濡れた体で寒さに震えながら試験を受けたことも今となれば良い思い出です。

その後、デイケアから外来相談室に配属され、尊敬できる先輩PSWと机を並べ、通院・入院患者さんやそのご家族の相談を聞かせていただいていたいました。

数年後初めて受け持った病棟が急性期病棟でした。まだその頃は訪問看護のような医療の支援や地域の活用できる資源も少なく、フォロー体制も乏しい中での退院がほとんどで、短時間で入退院を繰り返す方も多くみられました。精神科の患者さんが退院して通える場所もデイケアや作業所が主だったように思います。そのような中、病棟の試みとして医師を含めた多職種でのカンファレンスを始めました。入院された患者さんは全て対象とし、主治医、担当看護師と共に退院後の生活・支援を考える場ができました。

現在では活用できる地域の資源、サービスも増え、患者さんのニーズに沿ってその人らしい生活を実現できるよう、病院だけでなく地域の関係機関と共に支援できるようになったと思います。当時、共に相談し合い、助け合った看護スタッフは現在皆、管理職としてさまざまな部署で活躍しています。今も変わらず相談し合える仲間です。私も現在はスタッフを育てる立場となり、自分達の実践や想いを伝えていくことの大切さと難しさを感じています。

デイケア等で過ごした日々と比べると、患者さんと関わる時間は少なくなってきましたが、今でも定期的に訪ねて来てくださる患者さんもみえ、相談だけではなく、日常の出来事や昔話など会話を楽しむ時間も大切にしています。

最後に最近の趣味といえば、美味しい日本酒を全国から取り寄せすることです。コロナ禍までは職場の仲間と楽しく飲み歩いていましたが、現在はデパ地下の美味しい食材をつまみに、休みの日は自宅でゆっくり飲んでいきます。ストレスを溜め込まず、適度にリフレッシュをしながら、これからも業務に励んでいきたいと思っています。





「私の老化予防」

医療法人大仲会 大仲さつき病院
精神保健福祉士・デイケアセンター「メイ」
奥田みどり



はじめまして、大仲さつき病院の奥田です。

この度、寄稿文のご依頼をいただいたものの、最近ではカルテ以外文章を書くことがなく、どうしたものかと考えているうちに締め切りも近づき、はやりのAIで何とかならないかなと今どきの学生のような事も考えておりました。投稿内容は自由とのことでしたので、私が老化予防に始めた「バレエ」についてお伝えしたいと思います。拙い文章ですがお付き合いください。

「子ども叱るな、いつか来た道。年寄り笑うな、いつか行く道。」

若いころ、おばあちゃん子だった友人から聞いた言葉です。当時は「そんな諺があるのか、なるほど。」くらいにしか思っていませんでしたが、今やこの言葉が染み渡る年頃となりました。私の「行く道」は既にスタートを切っており、気力体力とも年相応、お茶を飲んでむせることも、平らなところを歩いて躓くことも、文章の読み違いや勘違い、近所のお子さんの名前もなかなか覚えられない等々、書いていても悲しくなることが増えてきました。人生100年時代、運よく永らえたとして、なるべく健康で「ピンピンコロリ」を目指すにはどうしたらいいのか、デスクワークで運動する機会もほぼない生活を見直そうと、一念発起してこの夏より「バレエ教室」に通うことにしました。

バレエというと手足の長い美しい女性が優雅に踊るイメージですが、私が始めたのは「バーレッシン」という老化予防のための基礎練習コースです。最近ではシニア向けのバレエ教室が流行っているようで、バーレッシンに必要なものは専用のバレエシューズだけ、後は動きやすい格好でOKとのこと。還暦前の私でもバレエを始めるのにはそれほど抵抗はありませんでした。

さてレッスン初日、何よりバレエの先生の立ち姿の美しさに驚きました。背筋がまっすぐに伸びて「凜としている」という言葉がぴったりです。猫背でパソコンを打っている自分の姿とは何たる違い。バレエバーの向こうの大鏡に映し出された私の姿は、まさにプレおばあちゃん。これはいかんと胸を張って何とか姿勢を良く見せようとするものの、腰が反っていては駄目だそうで、さっそく立ち方から指導していただきました。「まずは足を肩幅くらいに開き、踵に重心を置いて土踏まずのアーチを作ってまっすぐに立つ…、この時、仙骨は両足踵の間に、肩の力は抜いて胸を張らずに胸を開いて…」とこの辺りで頭が混乱してきます。大転子を柔軟に回し、なんでも腸腰筋と内腿を鍛えることがO脚予防となり、転倒リスクが減少するらしいのです。ところで腸腰筋ってどこ？土踏まずのアーチを作るってどうやってやるの？と長年使いこんだ自分の身体でありながら、使っていない筋肉を意識することがこれほど難しいとは。

先生の言われるまま、しゃがんだり立ったり、足を曲げ伸ばしして小一時間、既に膝はガクガク、アキレス腱が切れたらどうしようと不安になったところでレッスン終了。飛んだり跳ねたり走ることなど一切ないのに息も上がり、これは想像以上にハードな運動でした。

バレエの先生に伺ったお話ですが、最近のお子さんはスポーツ選手であっても「O脚」の方が多く、色々なスポーツクラブからバレエの基礎練習の指導依頼があるとのこと。スポーツ選手たちがトレーニングにバレエの基礎を取り入れることで、下半身の筋肉のバランスが取れ、競技パフォーマンスも上がるという好循環が起きているそうです。

バレエで内腿を鍛え、仙骨から胃をまっすぐに立てて、全身の筋肉の使い方を自由に操れるようになったら、私の後ろ姿はマイナス10歳に見えないかなと甘い夢をみております。





三重はふるさと 空中散歩

松阪市民病院名誉院長 小倉 嘉文



津の花火



志摩大橋（志摩パールブリッジ）



宝塚古墳



船形埴輪

船形埴輪

三重県病院協会では、会報誌への写真を 会員病院のみなさまから広く募集いたします。

① テーマ：風景、行事など、四季折々の季節感あふれるもの

※人物が特定できる場合は、被写体の承諾を受けたものをお願い致します。

写真形式：デジタルデータで提供できるもの

- 1 撮影者のお名前、施設名
- 2 撮影場所・写真のタイトル
- 3 写真の説明(50文字から100文字程度)

② 会員病院紹介：貴院の建物や、施設内の様子など

※主に写真(デジタルデータ)で紹介していただきたいと思います。
会員名簿の医療圏(北部および南部より)2病院様にご担当をお願いしたい
と思います。

詳細につきましては、担当病院様に事前にご案内致します。

送り先： 一般社団法人三重県病院協会

メールアドレス：[mail:sshenyi896@gmail.com](mailto:sshenyi896@gmail.com)

三重県病院会ホームページ 四季折々 より



2020年9月
「秋の里山を彩る草花たち」

赤、桃、白、黄の色鮮やかな
コスモス畑

2022年2月
「晩秋の里山」



晩秋のある日、新しく造成された団地の斜面を彩るハゼの木の紅葉。遠くの空の雲が印象派絵画を彷彿とさせます。

**三重県病院協会だより**

日 時	事 項	
第72回定例理事会 令和6年9月17日	1) 議長選出 副理事長 志田幸雄理事が議長 竹田寛前理事長への黙祷 2) 新理事長の選出、承認 理事長立候補届出1名(楠田司理事) 全員異議なし、理事長就任承諾 副理事長 志田幸雄理事、新保秀人理事 の2名 3) その他 ・災害時の無線免許取得について 堂本洋一 理事 ・前理事長、竹田寛先生のお別れの会について ・カスタマーハラスメントのアンケート依頼について (医療保健総務課・雇用経済課)	理事 12名 監事 2名 委任状 6名
第73回定例理事会 令和6年11月19日	1) 理事長報告 三重県地域医療介護総合確保懇話会、三重県医療審議会 三重県地域医療対策協議会医師等派遣検討部会 2) 各種委員会出席者報告 三重県医師会災害対策会議 (堂本理事) 3) 情報交換・その他 第3回「のろ志」総会開催について(江角理事) 令和6年度肝炎医療コーディネーターを対象とした研修会(清水理事) 次回会報誌306号について	理事 18名 監事 2名

令和6年度 事業報告 (研修事業)

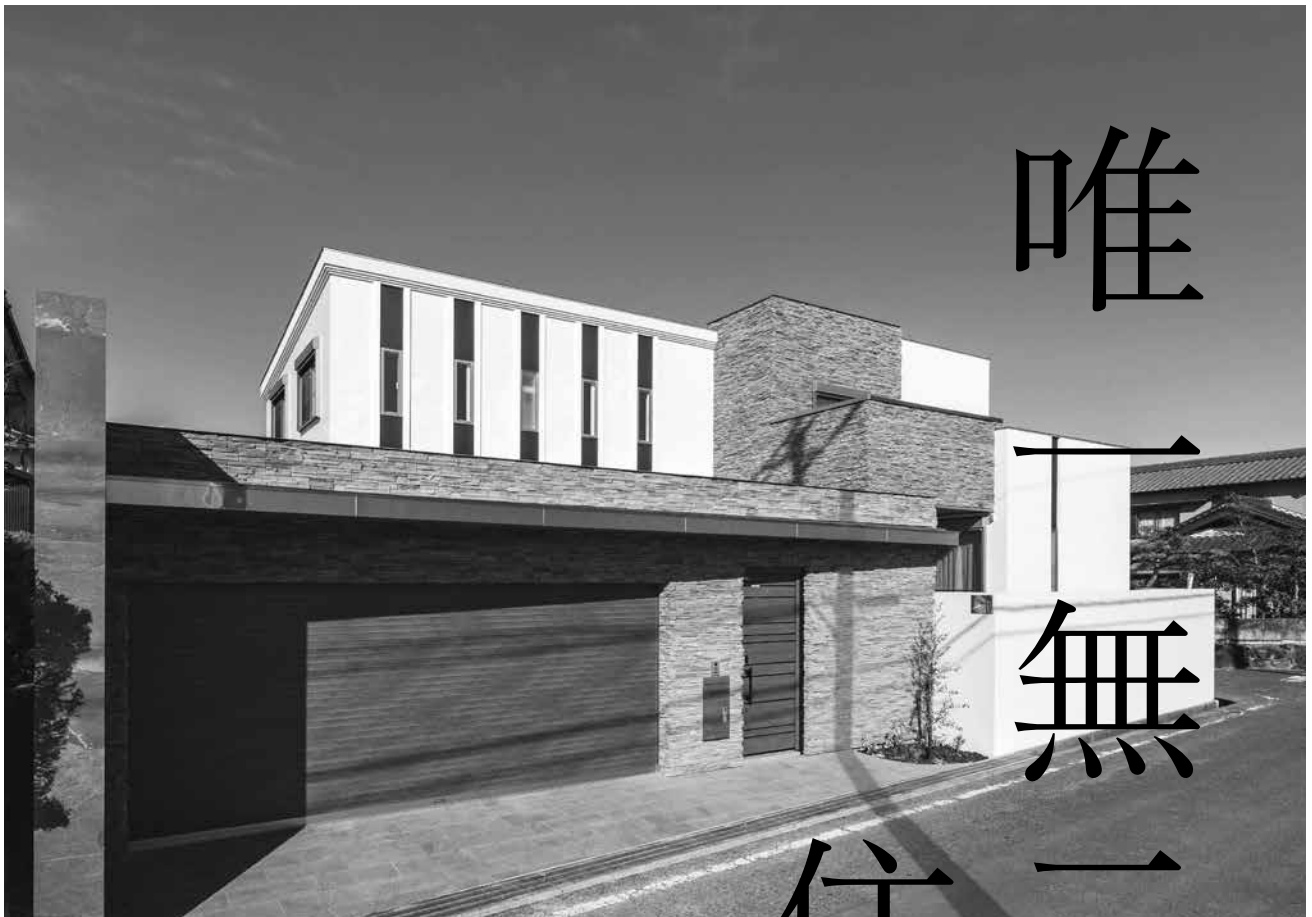
事業名	開催年月日	開催方法	講演テーマ	講師	参加人数
人権・接遇研修会	R6. 11. 21	オンライン (zoom)	『人権三法について』	三重県医療保健部 田中 直子 様	110名 (11月13日現在)
			『カウンセリングの現場から学ぶ』 ～自分を幸せにする生き方・考え方のヒント～	日本産業カウンセラー協会 服部 奈津子 様	
			『ワンランクアップの接遇を目指して』	株式会社 ニチイ学館 疋田 早苗 様	



三重県精神科病院会だより

年月日	事 項	
10月17日	<p>第15回三重精神科医療フォーラム</p> <p>参加者：事前参加登録 273 名 当日受付け 22 名</p> <p>大会テーマ 『育ちを支える精神科医療』</p> <p>—つながりの中で、そして つないでいくこと—</p> <p>大会長：県立子ども心身発達医療センター センター長 中西大介 先生</p> <p>担当病院：県立子ども心身発達医療センター 榊原病院、志摩病院、南勢病院、 熊野病院</p>	<p>◎スライド発表 36題</p> <p>◎ランチョンセミナーA</p> <p>座長：榊原病院 院長 鬼塚俊明 先生</p> <p>「うつ病に対するボルチオキセチンの 治療学的位置づけ」</p> <p>～ガイドライン改定をふまえて～</p> <p>講師：藤田医科大学 医学部 精神神経科学講座 臨床教授 岸 太郎先生</p> <p>◎ランチョンセミナーB</p> <p>座長：志摩病院 精神科部長 松山 明道 先生</p> <p>「精神疾患を伴う片頭痛をどう診るか」</p> <p>講師：医療法人杏野会 各務原病院 院長 天野 雄平 先生</p>





唯一無二の住宅建築

この家では、
帰宅すら誇りとなる。

オカモトハウジングは、
世界に一つだけしかない、住まい手の邸宅を造る為に存在しています。

私達の目的は、ただ一つ
「お客様への住宅を自分たちも住んでみたいと思う、素敵な建物にすること」
それ以外ありません。

その為には、プロとして建築の知識と技術を日々高め、
そしてそれらを惜しむ事無くお客様の住宅建築に注ぎ込んで行きます。

OKAMOTO HOUSING

有限会社 オカモトハウジング

〒510-8034 三重県四日市市大矢知町1638-1

TEL 059-364-2033 FAX 059-366-2778

<https://www.okamotohousing.com>

名古屋営業所

愛知県名古屋市中東区よもぎ台2-808 コーポ名峰101号室





快適が好きです。

親しみやすさを感じさせるユニフォームは癒しを与えてくれる



明るい励ましの声が響いてくるような、温かな絆のシンボルとも言えるユニフォーム。機能的な先進素材と、軽快で動きやすいデザインが理想の協働環境をサポートします。



KURA-UNI CORPORATION

クラユニ 検索

ユニフォームで人とコミュニケーション

株式会社 **クラユニ コーポレーション**

(旧社名 株式会社 倉田白衣)

★おかげさまで、地域に愛されて110年あまり。
ユニフォームのことなら何でも
ご相談ください！

あらゆるニーズに、確かな「ユニフォーム力」でお応えします。

- 津 本 社 津市中央 12-1 TEL059-226-8911 FAX059-225-8911
- 四 日 市 支 店 四日市市諏訪町 12-1 TEL059-351-8911 FAX059-351-8910
- 伊 勢 支 店 伊勢市宮町 1-9-20 TEL0596-24-8911 FAX0596-24-8583
- 名 古 屋 支 店 名古屋市東区飯田町 47 TEL052-931-8910 FAX052-931-8919
- ホームページ <https://www.kurauni.co.jp> ●FreeDial 0120-11-8911

NEWS! 各スポーツブランドのメディカルユニフォームに加え、高級ドクターコート等も取扱っています。

委託業者の 言いなりに**STOP!**

厨房運営
30年

ナリコマのクックチルで
「厨房経費の削減」を実現

味・人材・コスト課題のすべてをサポートいたします



こんな お悩み ありませんか？



人材不足に困っている

- ✓ 早番・遅番の人材が足りない
- ✓ 求人を募集しても、応募が来ない
- ✓ 採用してもすぐに辞めてしまう



コストが上昇し続けていて
困っている

- ✓ 人件費（最低賃金）の上昇
- ✓ 水道光熱費・食材費の高騰
- ✓ 給食委託費の値上げを迫られている



品質が安定しなくて
困っている

- ✓ 調理師によって味が変わってしまう
- ✓ 介護食のとろみや粘度が安定しない
- ✓ 温かい料理が提供できない

その悩み

ナリコマのニュークックチルにおまかせください！



ナリコマ エンタープライズ

(株)ナリコマエンタープライズ 名古屋営業所
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-6-6
名駅ユタカビル9階A号室

TEL 052-462-8122 FAX 052-462-8123



これからの医業経営へ、「信頼」で結びたい。



医療・保健・介護・福祉施設が抱えるあらゆる課題を、
資格認定されたコンサルタントが解決します。

認定登録 医業経営コンサルタントは、医業経営に携わる方々が直面する課題に
的確・迅速に対応するため、所定の継続研修を履修し、常に資質の向上を図っています。

JAHMC
Japan Association of Healthcare Management Consultants
公益社団法人 日本医業経営コンサルタント協会

三重県支部

支部 〒511-0834 三重県桑名市大福406-1 (税理士法人中央総研内) TEL: 0594-23-2448 FAX: 0594-23-3303

本部 〒102-0075 東京都千代田区三番町9-15 ホスビタルプラザ5階 TEL 03-5275-6996 FAX 03-5275-6991 <http://www.jahmc.or.jp>





三重県医薬品卸業協会

三重県病院協会会報

令和6年11月 NO.305

発行 一般社団法人 三重県病院協会
〒514-0009 津市羽所町 514 番地 サンヒルズ内
Tel.059-223-2744 E-mail:sshenyi896@gmail.com

印刷 伊藤印刷株式会社